仁田忠常の人穴探検

仁田四郎忠常は、平安時代末期から鎌倉時代初期の武士です。

1167(仁安2)年、伊豆国(現在の田方郡函南町)で生まれ、平氏打倒のために挙兵※1した源頼朝に仕えました。

源平合戦※2では、頼朝の下で数々の功績をあげ、頼朝から厚い信頼を得ました。1193(建久4)年、頼朝が行った富士の巻狩の最中に起きた曽我兄弟の仇討ち事件(頼朝の暗殺が真の目的だったともいわれる)の際には、兄の曽我十郎祐成を討ち取りました。

※1 兵をあげたり、戦を起こすこと
※2 武家の棟梁(有力な武士団の長)である源氏と平氏との間で1177～1185年に全国で起こった数々の戦の総称

忠常は、頼朝の跡を継いだ二代将軍頼家からの信頼も厚く、富士の巻狩の際、頼家から命じられ、1203(建仁3)年6月3日、人穴を探検しました。

吾妻鏡※3には、忠常が人穴で不思議な体験をしたことや、富士山の神が住む人穴には入ってはいけないことなどが記されています。

人穴の入り口

古くから人穴には、修行や参詣(お参り)をするために、多くの人が訪れました。人穴内部には、富士山信仰に関連する石仏や石碑、ろうそくの跡などがあります。

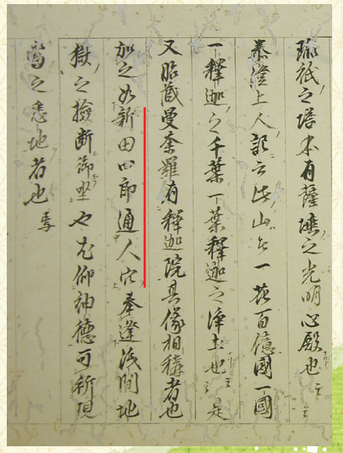
※3 鎌倉時代の歴史書で、鎌倉幕府の初代将軍の源頼朝から第7代将軍までの将軍記

一番奥にある浅間大神(富士山の神)の石碑

富士山大縁起

1697(元禄10)年に書かれたとされる富士山東泉院※に伝えられた巻物「富士山大縁起」には、富士山の出現や、月ではなく富士山に帰ったというかぐや姫伝説とともに、新(仁)田四郎忠常が人穴を探検したことが記されています。

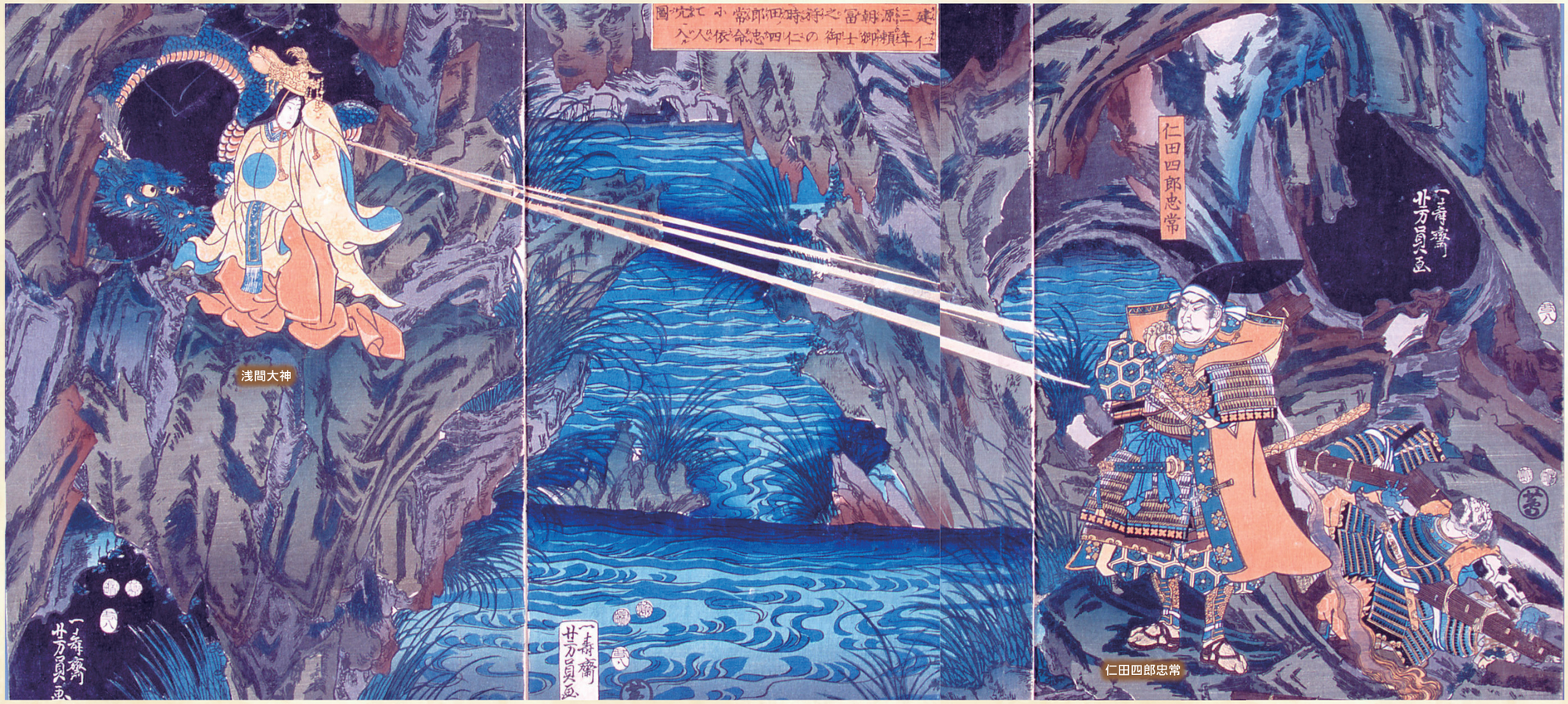
※ かつて、現在の日吉浅間神社(富士市今泉)に本堂があり、明治時代初期に廃寺となった


富士山かぐや姫ミュージアム蔵▶

忠常の人穴探検

吾妻鏡に記されているお話です

忠常が馬に乗って人穴に入り、どんどん進むと、江の島の弁天さんの岩穴に出たという伝説もあります。



▲建仁三年源頼朝卿　富士之御狩の時仁田四郎忠常命に依て人穴入図」（富士山かぐや姫ミュージアム蔵）

仁田忠常と富士の巻狩ゆかりの地

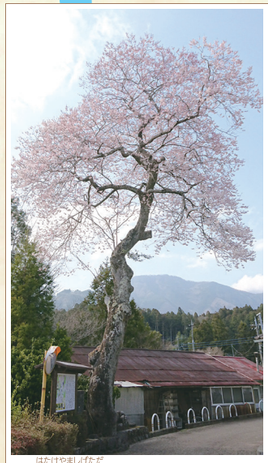
猪之頭地域

❶陣馬の滝
富士の巻狩の際、頼朝が滝の近くに一夜の陣を敷いたといわれる

❷鷲鷹八幡宮
曽我兄弟が討たれた際、鷲と鷹が兄弟の臓器をくわえて飛び去り、葬った地といわれる

❸太鼓石
陣馬の滝から太鼓を打つ音を聞いた頼朝が、滝つぼを探らせたところ、太鼓のような石が出たといわれる

❹撫川
頼朝が矢の先で地面を撫でたら、水が湧き出し、川になったといわれる



❺畠山重忠の桜
重忠は頼朝に仕えた武士で、巻狩の際、近くに陣を敷きこの桜に馬をつないだ（この桜を植えた）といわれる

忠常の猪退治

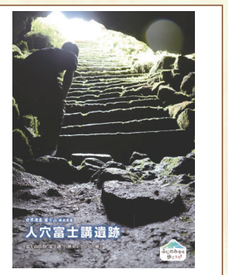
富士の巻狩の際、矢を射られた大猪が大暴れしながら頼朝に突進したため、忠常が飛び乗り、刀で仕留めたという勇ましい伝説が曽我物語に記されています。

▲富士御狩之図（富士山かぐや姫ミュージアム蔵）

人穴地域

❶駒立観音
富士の巻狩の際、頼朝が周辺の小高い丘からその様子を眺めた記念に建てられたといわれる

❷世界遺産富士山構成資産　人穴富士講遺跡
江戸時代に富士講の開祖とされた長谷川角行が厳しい修行を積み、亡くなったといわれる



マップ付きパンフレット
市役所3階富士山世界遺産課、人穴富士講遺跡または市公式ウェブサイトなどにあります。

HP トップページ>世界遺産富士山>世界遺産としての富士山>世界遺産富士山>ふじのみやを歩こう

問 富士山世界遺産課
☎22-1489

「富士宮市と富士の巻狩」動画公開中

富士の巻狩を分かりやすく紹介する7本の動画を市公式ウェブサイトで公開しています。

▶幕開け編　▶狩宿井出家と下馬桜編　▶猪之頭地区編
▶富士宮市ゆかりの地編　▶曽我兄弟の仇討ち編その1・その2
▶富士山本宮浅間大社編

問 広報課　☎22-1119
HP トップページ>観光>大河ドラマ「鎌倉殿の13人」>「富士宮と富士の巻狩」動画を作成しました

いざいざ鎌倉！～大河ドラマのワンポイント解説～　配信中

大河ドラマに関連する市内のゆかりの地などを文化課の学芸員が解説し、市公式SNS（LINE・Facebook・Twitter）で配信しています。
過去の配信は、市公式ウェブサイトでも見ることができます。

問 文化課　☎22-1187
HP トップページ>観光>大河ドラマ「鎌倉殿の13人」>いざいざ鎌倉！～大河ドラマのワンポイント解説～

鎌倉殿 富士山麓ゆかりの地

富士山の麓にある４市１町で構成される「富士山ネットワーク会議」。広域で連携し、よりよい住民サービスの提供に努めることを目的に活動しています。今回は現在放送中の大河ドラマ「鎌倉殿の13人」（NHK）が描く時代の各市町ゆかりの地や伝承を紹介します。富士山麓の史跡などを巡り、激動の時代の片りんにふれてみませんか。

歌川国芳「源平盛衰記　駿河国富士川合戦」江戸時代（富士山かぐや姫ミュージアム蔵）

問 広報課　☎22-1119　FAX 22-1206　koho@city.fujinomiya.lg.jp

富士宮市 FUJINOMIYA

鎌倉殿が伝えた流鏑馬（やぶさめ）

富士山本宮浅間大社の流鏑馬は、鎌倉殿（鎌倉幕府の長）となった源頼朝が、富士の巻狩を行った際、浅間大社を参拝し、戦への勝利と国の安泰を祈願して奉納したことに始まったとされています。

流鏑馬は、走っている馬の上から弓矢で的を射る日本の伝統的な武芸で、平安時代末期から鎌倉時代に武士を中心に武術訓練として広がりました。

毎年５月５日に行われる富士山本宮浅間大社流鏑馬は、市指定無形民俗文化財となっています。

富士の巻狩にまつわる歴史や史跡を富士宮市公式YouTube で紹介しています。

▲「富士宮と富士の巻狩」動画

富士市 FUJI

富士川の合戦の舞台

富士川の合戦とは、平清盛が頼朝討伐のために平維盛の軍を都から鎌倉へ派遣する際、当時の富士川を挟んで対陣した戦のことです。この戦で平家軍は、夜中に行われた源氏の移動によって起きた水鳥の羽音を敵の来襲であると間違え、戦うことなく西に向かって敗走したと言います。この敗戦は、平家没落の大きなきっかけのひとつとなりました。

水鳥が飛び立った音に驚いた平家軍が敗走した場所である「平家越」と平家方が物見（見張り）をした「物見堂」、頼朝が鎧を脱いで体を洗ったとされる鎧ヶ淵親水公園、13人のうちの１人である和田義盛にちなんだ地名や神社など市内にはゆかりの地（は）が数多くあります。市内各所を巡り、富士川の合戦に思いを馳せてみませんか。

▲平家越の石碑（今泉）

▲物見堂（岩淵）は、市内が一望できる絶景スポット

▲富士市ウェブサイト「鎌倉殿へのはじまり」

御殿場市 GOTEMBA

御殿場に伝わる富士の巻狩

源頼朝が現在の御殿場市周辺の富士山麓で行った大規模な巻狩は、富士の巻狩と呼ばれています。源頼朝が朝廷から征夷大将軍に任ぜられ、名実ともに鎌倉に幕府が開かれたのは、建久３（1192）年。その翌年、富士の巻狩が行われました。市内には、富士の巻狩やその時代にまつわる旧跡や伝承が数多くあり、富士の巻狩と関係があるとされる地名も数多く残っています。

源頼朝猟富士野之図

写真は、臨済宗の寺院「東岳院」に明治時代初めに奉納された浮世絵師歌川一雲斎国秀作の「源頼朝猟富士野之図」で、富士の巻狩の様子を描いた迫力ある作品です。

富士の巻狩の紹介や伝承などをまとめたマップを市公式ホームページ内「御殿場デジタル資料館」で紹介していますので、ぜひご覧ください。

▲御殿場デジタル資料館

裾野市 SUSONO

源頼朝が喉を潤した伝承の残る湧水地 頼朝井戸の森

頼朝井戸の森は、国道469号沿い、十里木高原展望台駐車場から東におよそ600メートル進んだ場所に位置します。建久４(1193)年５月、源頼朝が裾野市域を含む富士山麓で行った大規模な巻狩は、自らの武力を示すためのものでした。そのときに、頼朝が喉を潤すために飲んだとされる湧き水の水源を含む森を、『頼朝井戸の森』と呼ぶようになりました。その水のおいしさに感動した頼朝は、朱塗りの盃を沈めて水神様に献じたと伝えられています。昭和42年に市指定天然記念物に指定された自然豊かな森には、四季を通じて様々な野鳥が訪れ、落ち着いたひとときを過ごすことができます。

十里木周辺には、ほかにも頼朝が富士の巻狩のときに本陣を敷いたとされる御本陣や、米とぎ場（弁当場）など富士の巻狩にちなんだ地名が残っています。周辺には遊歩道や登山道もあります。広大な富士山麓の自然にふれながら、散策をお楽しみください。

▲頼朝の井戸の石碑

▲頼朝の井戸

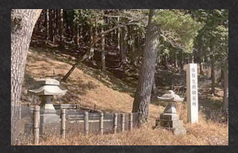
小山町 OYAMA

藤原光親卿（ふじわらのみつちか）の墓

物語のクライマックス、承久の乱（承久３年）のとき、後鳥羽（ごとば）上皇による北条氏討伐の企てに際し、後鳥羽上皇の側近であった藤原光親卿は、倒幕計画の無謀さを憂い、幾度も意見しましたが聞き入れられず、北条義時追討の文書を書きました。

戦後、後鳥羽上皇方の中心人物として参加した光親卿は、公家の中でも最も重い罪に問われ、甲斐の武田信光により鎌倉護送の途中、加古坂（現在の篭坂峠（かごさか））において斬首されました。義時の長男である泰時は、その死後に光親卿が上皇をいさめるために執筆した書状を目にし、光親卿を処刑したことをひどく悔やんだと言います。

毎年５月に地元の人々により、慰霊祭が執り行われています。



▲藤原光親卿の墓への入口

▲中央の石碑が光親卿の墓

広報ふじのみや　2022.05